

自治体名	白石町教育委員会 担当課：学校教育課 電話番号：0952-84-7128
------	---

1. 事業の概要について

1.1 基本情報（令和4年度4月末時点）

① 中学校数	3校	② 生徒数	262人	③ 部活動数	7部
--------	----	-------	------	--------	----

1.2 地域における現状・課題

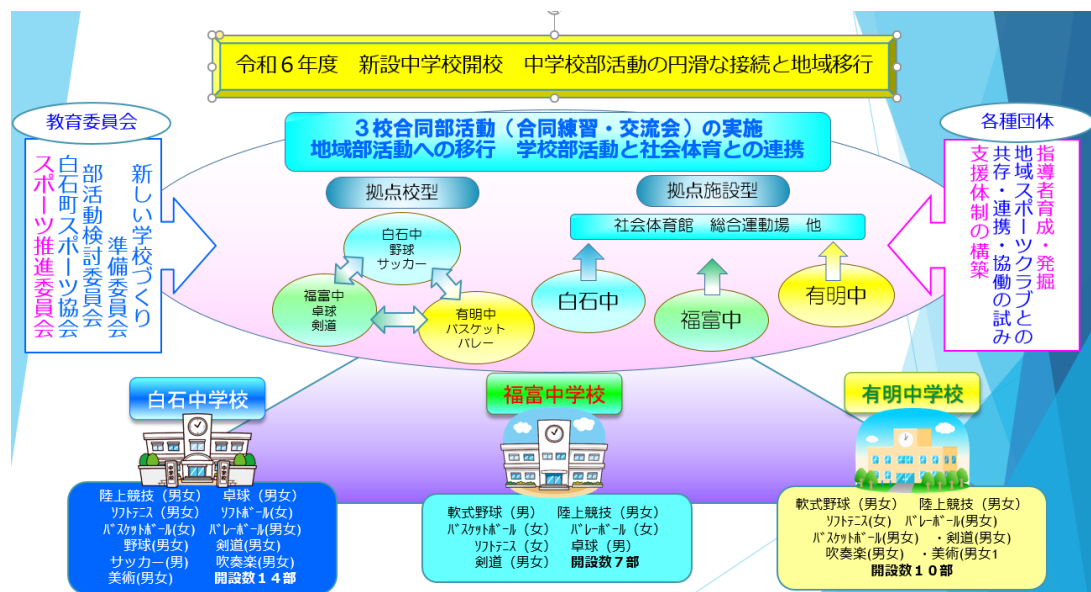
本町では、令和6年度4月に現在の3中学校を統合再編し、新設中学校の開校に向け、準備委員会を立ち上げ具体的な協議と研究を進めている。「新しい魅力ある学校づくり」を目指すうえで、中学生にとって「やりたいスポーツ・部活動ができること」は重要な条件である。3中学校が連携・協力し合い、開校に先駆け、合同練習会や合同部活動ができる体制や学校と地域が融合した組織を構築すること、指導者として地域人材を発掘・育成し有効活用すること、学校施設を有効活用する方策を検討すること等が求められている。このような現状の中、以下の内容が課題である。

- (1) **指導者の確保、育成**⇒部活動指導員や地域指導者派遣事業の充実：教職員に頼らない指導体制づくり
- (2) **地域での受け皿**⇒スポーツ少年団、総合型地域スポーツクラブ、町内種目協会・連盟との連携・協働
⇒小中学生が安心してスポーツ活動等に取り組むことができる環境づくり
- (3) **保護者の負担増**：会場移動に係る負担、会費徴収（「受益者負担」意識の醸成）、困窮家庭の生徒支援
- (4) **運営主体**は誰か⇒学校、保護者、行政、地域スポーツクラブ、民間クラブ運営者…他
- (5) **活動場所の確保**⇒学校体育施設、社会体育館、町公共スポーツ施設の有効活用

1.3 実践研究における取組目標

- (1) 町内中学校が現有する部活動9種目13部のうち、持続可能な運動部活動のモデル5種目7部を指定し、合同部活動を実施する。
- (2) 「複数校合同チーム」を編成し、可能な限り大会参加を実現する。
- (3) 地域部活動と地域スポーツクラブ団体（スポーツ少年団、総合型地域スポーツクラブ）との連携・融合に関する研修を実施する。
- (4) 日本スポーツ協会公認スポーツ指導者資格取得者の発掘と育成（スタートコーチ 10名）
- (5) 部活動検討委員会(3回)及び競技別検討部会（3回）を開催する。

1.4 実践研究の運営体制



2. 地域連携や地域移行の推進に向けた体制整備の取組について

2.1 白石町部活動検討委員会の実施⇒全体会3回 競技別部会年間5回実施

モデル事業（陸上競技、軟式野球、バスケットボール、バレーボール、卓球）実施

2.2 中学校部活動での合同練習会、部活動交流会、複数校合同チーム活動の実施

2.3 地域指導者派遣（15人）と指導者資格取得（JSPO公認スポーツ指導者）促進

2.4 「ジュニアユーススポーツ推進研修会」の開催（年間2回実施）

3. 実践研究校における取組について

3.1 実践研究校情報

① 実践研究校数	白石町内3中学校が実践研究に参加
② 実践研究に取り組んだ部活動数	7部
③ 種目	陸上競技、バスケットボール、バレーボール、野球、卓球

《主な取組例(1)》…白石町立白石中学校、福富中学校、有明中学校

① 種目	陸上競技	② 参加者数	72人
③ 活動日	土曜日または日曜日	④ 活動場所	近隣公共施設 陸上競技場
⑤ 指導者人数	5～6人	⑥ 謝金単価(1人あたり)	地域指導者：2,650円/回
⑦ 指導者属性	地域指導者については、町内スポーツ少年団指導者、高校指導者を派遣		
⑧ 参加会費の有無・金額	徴収なし		
⑨ 移動手段	保護者が送迎を実施。または生徒自身が自転車で移動。		
⑩ 合同チームとしての大会参加状況	合同チームとして、佐賀県スポーツ少年団主催の駅伝大会に1回参加		

《主な取組例(2)》…白石町立白石中学校、福富中学校

① 種目	卓球	② 参加者数	54人
③ 活動日	土曜日または日曜日	④ 活動場所	福富社会体育館
⑤ 指導者人数	4人	⑥ 謝金単価(1人あたり)	地域指導者：2,650円/回
⑦ 指導者属性	地域指導者について、町教委委託地域指導者や地域クラブ指導者を派遣		
⑧ 参加会費の有無・金額	徴収なし		
⑨ 移動手段	保護者が送迎を実施。または生徒自身が自転車で移動。		
⑩ 合同チームとしての大会参加状況	合同チームとして、競技団体主催の大会参加はなし		

3.2 各実践校での取組を通じて挙げた課題や解決方法、取組において特に工夫した点

- (1) 種目協会や連盟によっては、合同部活動チームや複数校合同チームの大会参加規程が複雑かつ厳格である。生徒の成果発表の機会として「大会参加」ができるよう、大会主催者や運営主体に参加規定の見直しや検討を依頼した。
- (2) 合同部活動を継続する上で、学校部活動が中心である場合は、職員体制に応じて拠点校を決める。
- (3) 合同チームで大会参加(土、日)が実現した場合、監督やコーチの役割や引率責任について、不明確な点がある。今後、「休日の部活動地域移行」の実施を含め、細部にわたる検討が必要である。
- (4) 指導者の確保について、「指導者謝金」の保障がないと「やる気」だけで引き受けるのは難しい現状である。スポーツ団体関係者や保護者等に、「受益者負担」の意識の醸成とともに、「指導者」の有償化について、広く理解を深める取り組みを行う。
- (5) JSPO 資格取得を推奨しスタートコーチ(教職員、スポーツ少年団) 資格取得に係る経費の助成を行い6名取得。

4. 実践研究の成果と今後の課題

4.1 実践研究での検証から得た成果

- (1) 部活動検討委員会及び競技別検討部会を開催したり、「ジュニアユーススポーツ推進研修会」を開催したりしたことで「学校部活動と地域スポーツクラブ団体との連携・融合」や「休日の部活動地域移行」に関する内容について、教職員や町民の理解が深まった。また、今後の「部活動改革」に関する論点整理が進んだ。
- (2) 町内中学校の持続可能な運動部活動のモデル5種目7部を指定して合同部活動を実施することにより、地域指導者と学校部活動指導者の相互理解や今後の合同部活動や休日の部活動地域移行に関する方向性を共有する機会となった。
- (3) 「複数校合同チーム」を編成し活動を継続することや大会参加を実現するための具体的な方策や体制づくりについて、多くの課題や問題点を共有する機会となった。
- (4) JSPO 公認スポーツ指導者資格取得については、さらにその必要性和重要性を周知、啓発していく必要がある。
- (5) 保護者や関係者の意見や要望
 - ・子供は中・高校も部活をやりたい、やりたい部活がある所を選んでいました。やりたくてもやれない環境は、あきらめなければならないということになりますし、スポーツができる環境づくりは素晴らしいと思います。スポーツをやって仲間やつながりができてスポーツで得る経験は大切です。
 - ・「地域移行を成し遂げる」強い意志を感じた。「子どものため！」を信じて。白石町も1日も早く移行してほしい。
 - ・白石町も部活の地域移行だけにとどまらず、「スポーツの町」として、子どもたちのための環境づくりを行ってほしい。

4.2 地域連携・地域移行における今後の課題

※ 別添資料参照

